

五ヶ瀬川水系流域治水プロジェクト【位置図】

○ 令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、九州有数の流域面積を有し、下流部に位置する流域最大都市である延岡市にて、北川・祝子川といった支川が集中合流するという流域特性を持つ五ヶ瀬川水系においても、事前防災対策を進める必要があることから、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、平成5年8月洪水と同規模の洪水を安全に流し、それを上回る戦後最大の平成17年9月洪水と同規模の洪水に対して堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。

- ・土地の嵩上げ
 - ・重要施設の移転
 - ・霞堤の保全 等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討



- ・避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤整備
- ・多機関連携型タイムラインの運用
- ・重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認
- ・防災意識の醸成、防災体制の強化
- ・農業用ため池マップの公表



- ## ■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・洪水浸水想定区域図の策定・公表
- ・ハザードマップの作成
- ・水害リスク・ハザードマップの周知
- ・実効性を高める訓練、研修会の実施
- ・避難確保計画、個別避難計画、避難訓練
- ・避難所及び避難路の整備
- ・多機関連携型タイムラインの運用
- ・情報伝達・情報共有・情報提供
- ・防災意識の醸成、・防災体制強化
- ・リスク共有（重要水防施設の見直し及び水防資機材の確認、農業用ため池マップの公表）
- ・インフラ機能回復（流入物撤去の際の費用補助）
- ・避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤整備等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討



- 【高森町）
避難所及び避難路の整備

- 重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認
避難所及び避難路の整備
農業用ため池マップの公表

- 多機関連携型タイムラインの運用
重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認
避難所及び避難路の整備

- 雨水ポンプ場整備(延岡市)

- 堤防整備(宮崎県)

- ## 【五ヶ瀬町】 重要施設の移転


- (高千穂町・五ヶ瀬町)**
- ・多機関連携型タイムラインの運用
 - ・重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認
 - ・避難所及び避難路の整備
 - ・農業用ため池マップの公表


- ## ■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策


- ・堤防整備、河道掘削、適正分派、河口処理、防災拠点整備、橋梁架替 等
- ・浸水被害対策（堤防・護岸整備、排水ポンプ整備、市道整備）
- ・下水道等の排水施設の整備
（雨水ポンプ場整備、雨水ポンプ更新、排水ポンプ整備、排水ポンプ更新、ポンプ耐水化）
- ・砂防堰堤の整備
- ・利水ダム等8ダムにおける事前放流等の実施、体制構築
（関係者：宮崎県、大分県、九州電力（株）、旭化成（株）、JNC（株）等）
- ・水田の雨水貯留機能強化・用排水路整備
- ・森林の保全・整備、水源林造成

- (延岡市)**
- ・多機関連携型タイムラインの運用
 - ・重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認
 - ・避難所及び避難路の整備
 - ・農業用ため池マップの公表
 - ・インフラ機能回復・流入物撤去の際の費用補助

凡 例




 浸水範囲(戦後最大の
H17.9洪水)実績

 大臣管理区間

 事前放流実施利水ダム

- (流域内 県・市町井通事項)

- ・洪水浸水想定区域図の策定・公表
- ・ハザードマップの作成
- ・水害リスク・ハザードマップの周知
- ・実効性を高める訓練、研修会の実施
- ・避難確保計画、個別避難計画、避難訓練
- ・情報伝達・情報共有・情報提供

凡 例	
	流域界
	一級河川(指定区間内)
	一級河川(指定区間外)
普通 △ ▲	水位観測所
○ ⊗ ⊙	雨量観測所
□	流量観測所
●	中継所

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

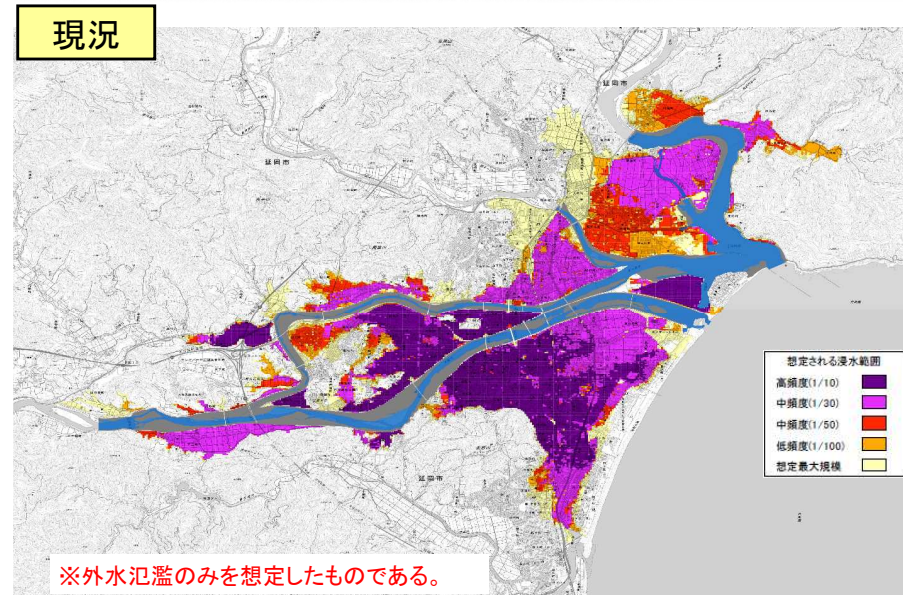
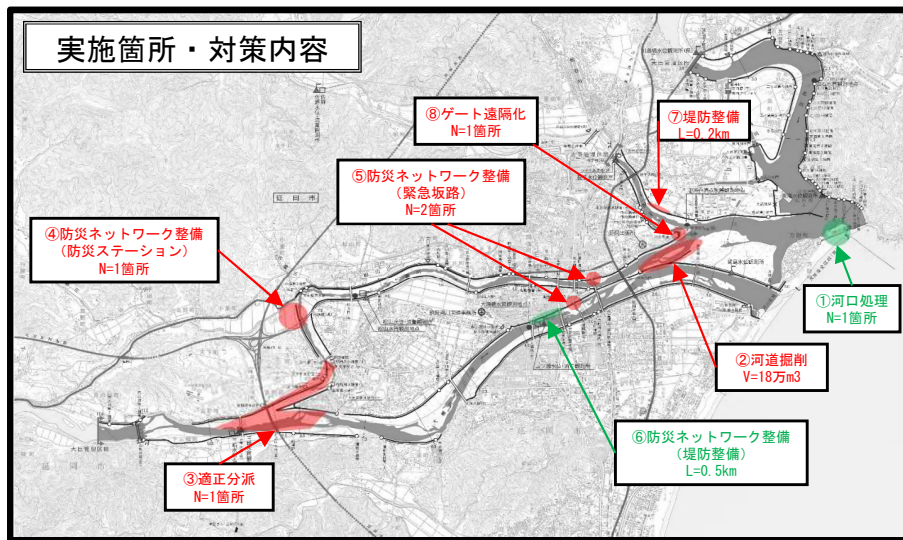
五ヶ瀬川水系流域治水プロジェクト【事業効果(国直轄区間)の見える化】

～地域をみずからまもる、水害に強い地域づくりのためのハード・ソフト対策の推進～

○五ヶ瀬川流域における災害時の拠点となる防災ステーションが概成することで、洪水被害の軽減・早期復旧及び大規模災害等にも対応できる広域支援が可能となる。

○祝子川における堤防の拡幅(直轄区間)が完了し、平成9年9月規模の洪水でも安全に流下させることが可能。

短期整備（５ヶ年加速化対策）効果：河川整備率 約８４％→約８６％



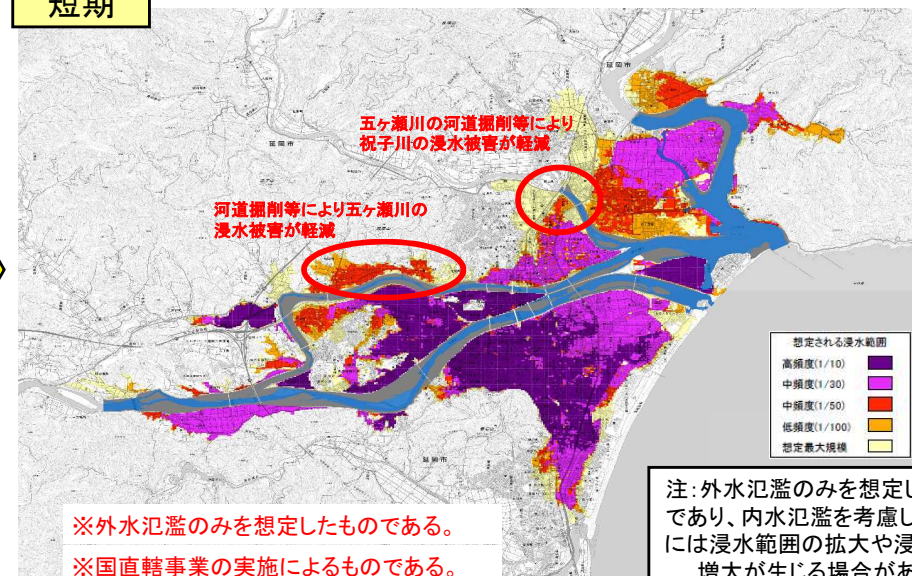
対策内容	区間	工程	
		【５ヶ年加速化対策】 短期(R3～R7年度)	中長期(R8～R13年度)
①河口処理 0%→100%	五ヶ瀬川 下流地区	100%	100% (概ね1/20→1/30)
②河道掘削 25%→100%	五ヶ瀬川 昭和町地区	100% (概ね1/20→1/30)	
③地震・津波対策(陸間遠隔化) 0%→100%	五ヶ瀬川 昭和町地区	100%	
④防災ネットワーク整備(緊急坂路) 0%→100%	五ヶ瀬川 昭和町・須崎町地区	100%	
⑤防災ネットワーク整備(防災ステーション) 0%→100%	五ヶ瀬川 天下地区	100%	
⑥適正分派 0%→100%	五ヶ瀬川 天下地区	58%	100% (概ね1/20→1/30)
⑦防災ネットワーク整備(堤防整備) 0%→100%	大瀬川 川中地区		100%
⑧堤防整備 0%→100%	祝子川 栗野名地区	100% (概ね1/20→1/30)	

【短期整備完了時の進捗】

- ②河道掘削
25%→100%
- ③地震・津波対策(陸間遠隔化)
0%→100%
- ④防災ネットワーク整備(緊急坂路)
0%→100%
- ⑤防災ネットワーク整備(防災ステーション)
0%→100%
- ⑥適正分派
0%→58%
- ⑧堤防整備
0%→100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

短期



五ヶ瀬川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～地域をみずからまもる、水害に強い地域づくりのためのハード・ソフト対策の推進～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：86%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



0市町村

（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



0施設

（令和3年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 9箇所

（令和4年度実施分）

砂防関係施設の
整備数 1施設

（令和4年度完成分）

※施工中 9施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



1市町村

（令和4年12月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定 15河川

（令和4年9月末時点）

※一部、令和4年3月末時点

内水浸水想定 0団体

（令和4年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保 洪水 421施設

計画 土砂 103施設

（令和4年9月末時点）

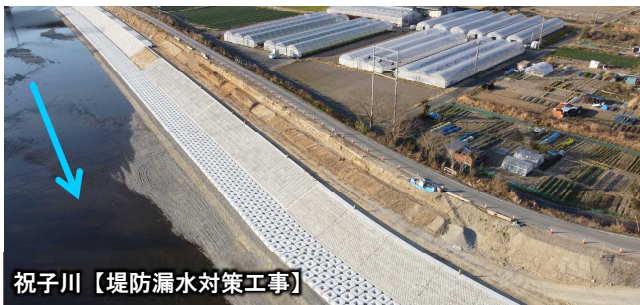
個別避難計画 1市町村

（令和4年1月1日時点）

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



【国】適正分派事業に必要な事業用地協議を図るとともに、天下地区河川防災ステーション整備完了にむけ、盛土工や根固整備を実施

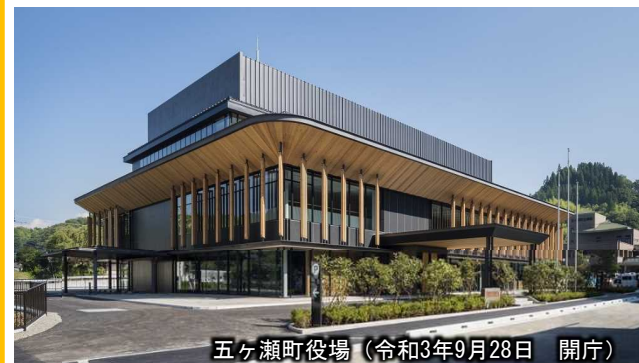


【宮崎県】五ヶ瀬川や北川など樹木繁茂箇所などで樹木伐採・河道掘削などを図るとともに、祝子川では、堤防工事などの対策工を実施

被害対象を減少させるための対策

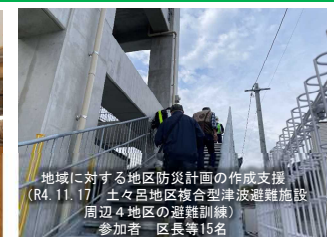


○日之影町役場の移転
（移転した事によりR4水害で浸水を回避）



○五ヶ瀬町役場の移転
（移転した事によりR4水害で浸水を回避）

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

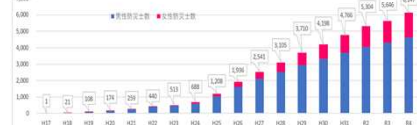


○【延岡市】
防災講話：98回 3,888人
避難訓練：79回 5,236人
（R5.3末時点）

宮崎県防災士養成研修・防災士出前講座

・令和4年5月末現在の防災士数
〈宮崎県〉 6,147名（人口10万人当たり579名）
〈全国〉 231,845名（人口10万人当たり184名）

・防災士数の順位
全国…14位 九州…3位（福岡、大分に次ぐ）
※人口10万人比では、全国6位



○防災士養成研修…災害時において最も重要な「自助・共助」を推進するため、地域防災の核となる防災士を養成している。
○防災士出前講座…自主防災組織や自治会、学校や企業に防災士を講師として派遣する出前講座を実施し、地域の防災力を向上させている。